

選ばれるステーションとは？

東京都訪問看護ステーション協会だより（冬号）が、事務局に届きました。

山の上ナースステーションの柴田三奈子所長さんが、「わかりやすいけいせい学」というコーナーで、選ばれるステーションについて述べています。柴田所長は、徳島にお越しいただき、講演いただいたこともあります。ご存知の方もいらっしゃるでしょうか。

選ばれるステーションを考える時、「誰」に選ばれるのでしょうか。柴田氏は、サービス利用者と働く職員の両方だと述べています。この視点は、とても大切です。私たちは、ともすれば、利用者の方に選ばれることばかりを考えていないでしょうか。看護職は、看護をする相手である、療養者や家族のことを考える習慣がついています。ベテランの看護師の方に、療養者に選ばれるステーションについては言うまでもなく、常に考え実践されていることと思います。

しかし、療養者によい看護を提供したいと願うなら、そこにはよいスタッフが不可欠です。つまり、働く職員が次々と離職していくようでは、よい看護サービスを提供したいと思っても、なかなかそうはいかなくなります。皆が忙しさに疲れ、スタッフ間で批判しあい、建設的な意見交換もできなくなってしまいます。

柴田氏は、仕事が楽しくない、やりがいを感じられない、労働条件が厳しい、という状況があれば、早期離職につながると述べています。

ステーションとしての理念を明確にし、労働環境を整えることが、ステーションに職員が集まるためには、必要だと述べています。

訪問看護師の倍増計画が出される一方、これから、人材不足は、ますます深刻になります。特に、地方では看護師不足への対応に苦慮しています。そういった中でも、職員が集まる、就職してくれる、働き続けてくれるステーションを目指していきましょう。そのために、職員と共に、ステーションの目指しているもの、強みなどを共有し、療養者や家族の方々、関係機関の方々との連携も深めていくことが大切だと思います。

徳島県訪問看護ステーション連絡協議会という場を活用することができるのではないかと考えています。

（出典:そわにえ、第36号、東京都訪問看護ステーション協会だより（冬号）、6頁、一般社団法人東京都訪問看護ステーション 発行、2019.01.10）